

大阪回生リハビリテーション研究会 特別講習会風景

大阪回生リハビリテーション研究会 特別講習会

「感覚と運動の生理学」②

骨格筋の生理学Ⅰ —興奮収縮連関—

講師：曾我部 正博 先生(名古屋大学 大学院医学研究科 細胞科学大講座 主任教授)

日時：2009年10月3日(土)

会場：大阪回生病院リハビリテーションセンター

大阪回生リハビリテーション研究会 Osaka Kaisei Rehabilitation Society

URL: <http://www.kaisei-hp.co.jp/center/rihabiri.html>

今回もご多忙の中、曾我部正博先生を講師にお迎えし、シリーズ第2回 骨格筋の生理学についてご講義いただきました。

前回の興奮（活動電位）の復習と補足として、膜電位の発生機序、電気信号の特徴や役割を再度ご講義して頂き、興奮の伝導・伝達について大変わかりやすい説明でより深く理解することができました。組織の構造がどのように生体に関わっているのか、その意義について疑問をもち考える良い機会となりました。次回のご講義がとても楽しみです。

曾我部正博先生、本当にありがとうございました。

<講義風景>



アンケート集計

① 講習会内容にて一番興味をもてたこと

- ATP クライシスと臨床への応用
- リアノジン受容体の働きについて
- 閾値とホジキンサイクルについて
- 興奮収縮連関のメカニズム・Ca イオンの働きについて
- 拘縮・硬結の原因とその治療法

② 疑問に思ったこと

- 活動電位の最大（オーバーシュート）の定位について
- 高齢者と若年者での静止膜電位の相違
- 筋の活動量の違いによるイオンポンプ・チャネルの数の変化について

③ 難しく感じたところ

- リアノジン受容体・ホジキンサイクルについて
- イオンチャネル・ポンプについて
- 興奮の伝導について
- 臨床との繋げ方について

④ 講習会感想

- 1つ1つの繋がりを理解することができました
- 拘縮についての内容に興味があり、筋収縮の生理学を理解し治療を進める上で大変勉強になりました。
- 生理学の基礎知識について再度勉強することが必要であると思いました。
- よりミクロな視点で捉えることができました。
- 治療と繋がる内容であり興味をもって聞けました。
- 知識不足のため難しく、筋収縮が起こるまでのメカニズムを学べて考えながら今後治療を行っていこうと思います。